



地域日本語支援ニュース こだま 第 415 号

2022.1.20

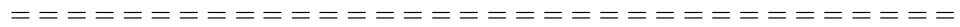


★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部: <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>



■特集■

コロナ禍でどのように日本語を勉強していますか
～みなさんの国でのコロナの状況はどうか～

2019 年の大みそか、原因不明の肺炎の集団感染事例が報告されてから、COVID-19 はあっという間に世界を席卷し、「コロナ禍の日常」となってから 2 年が経とうとしています。帰国も来日もままならない中、不自由を感じている日本語学習者がいる一方で、オンラインならではの良さもあることに、皆が気づき始めたことも事実です。各地から「こだま」に寄せられた、コロナとともに過ごす日々の報告をご紹介します。

.....

◆ ナディアさんは 2020 年末から現在まで ZOOM で日本語と教科の支援をうけているがんばり屋の中学生です。

春休みの恒例で、2020 年も日本で働く家族に会いに来ました。母国スリランカに戻ろうとした時に国はロックダウンになり、そのまま帰国出来る日を待ちました。動画で JAPAN センターの日本語講座を見ていました。しかし、11 月

には帰国を断念して日本の中学校に通うことになり、ボランティア団体に相談して ZOOM で日本語会話を学習始めました。中学生活にも馴れて 1 年経って高校受験の勉強をしています。母国ではまだまだ学校が再開していないので、今、学べることはよかったと思っています。

◆ コロンビアのボゴタから来日して、ゼロから日本語を学び、2 年の任期を終えて帰国した学習者の方に、帰国後の様子をメールで聞きました。

コロンビアでも日本語の先生がいます。先生は数年前ご主人とコロンビアに来ました。先生はメデジンに住んでいるので、オンラインで、退社後に一週間に 2 回授業を受けています。授業は話す中心が好きです。授業で練習したことを覚えるのが一番難しいです。辞書はアプリの「imiwa?」をよく使いますがとても便利です。働いている会社は日本の会社なので、日本人とメールや話す機会があったら、日本語を使います。ボゴタはいつも涼しいですが、今とても寒いんです。コロナの時、ロックダウンで 8 か月外出禁止でした。コロンビアは大変な状況でしたが、ワクチンのためにどんどん良くなっています。私は自宅で作って、デザートも作りました。そして、オンラインのトレーニングを見ながら運動しました。Netflix で日本の番組をみて、楽しいです。日本の文化が理解できて日本での生活を思い出す機会です。オリンピックを見ました。とてもエキサイティングでした！

◆ タイから 2 年前に来日して知人宅に居候しながらレストランで働いている学習者の方からのお話です。

今コロナで仕事がありません。ずっと家にいます。時々タイ料理を作ります。野菜を植えました。ミントを植えました。サボテンいっぱい自分で植えました。初めてお花を見たとき、嬉しかったです。タイでも生活大変でした。ワクチンがなかった。今は外国からもらいました。

◆ AJALT の教師会員にも聞いてみました。

アメリカ出身の学習者は IT 技術者、中級程度で、レッスンは特に支障はありません。日本語レッスンに限らずオンラインでの仕事は、通勤がない、場所の制約がない、家族との時間が作れるなどのメリットがある一方、同僚や取引先との人間関係が作れない、仕事とプライベートの区別がつかないなどのデメリットがあるということです。

フィリピン出身の学習者は高校英語教師、初級ですが、英語が自由に話せるので、細かい説明の時、助かります。オンラインでのレッスンは、ラフな服装でもいい、レッスン時間が自由に選べるなどのメリットがあるとのこと。

アスリート留学生の日本語授業を担当しています。柔道選手であるキルギスの留学生は、1年半キルギスでオンライン授業を受けました。この学生は、試合や合宿で遠征することがあり、日本での対面授業では欠席が多かったのですが、オンライン授業では自宅だけではなく遠征先からでも授業に出席でき、継続的な学びができました。「オンライン勉強と言われて最初はびっくりしました。でも慣れてきたら便利でした」と感想をくれました。

また、日本語が全く初心者のケニアのマラソン選手は、未だに来日が叶わずオンライン授業が続いています。ケニアでは日本の情報が極端に少なく、日本について知ることは難しいとのこと。しかし、オンライン授業で日本人の教師そして日本語に触れることにより、日本を身近に感じられるようになり、毎回授業開始時に「おはようございま〜す！元気です」と日本語で笑顔を送ってきます。来日時の大きな助けになると思います。

このようにオンライン授業は良い面がある一方で、海外から出席する場合には各国との時差や、通信回線や機器が十分に整っていないという問題もあります。
